# 中学歴史プリント（過去問類似）
# 戦国時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

**問1** 戦国時代の日本において、全国統一の動きを加速させる要因となった鉄砲について、その伝来の経緯を説明したものとして正しいものはどれか。 （2016年　群馬県公立入試　類似）

**1.** 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。
**2.** 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。
**3.** キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。
**4.** 元寇の際に、元軍が使用していた「てつはう」を日本側が改良して国産化した。

**問2** 16世紀半ば、フランシスコ・ザビエルらイエズス会の宣教師が日本を含むアジアなど世界各地へ布教に赴いた歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 （2017年　京都公立入試　類似）

**1.** ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため
**2.** マルコ・ポーロが『世界の記述（東方見聞録）』で日本を黄金の国と紹介したため
**3.** 十字軍の遠征が失敗し、キリスト教徒が住む場所をアジアに求めたため
**4.** 産業革命によって生産された工業製品を販売する市場を求めていたため

**問3** 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が「御成敗式目（貞永式目）」を制定した目的や背景を説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。 （2015年　岡山公立入試　類似）

**1.** 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。
**2.** 今川義元などの戦国大名が分国法を作ったことに対抗し、全国の武士が幕府に対して絶対的な忠誠を誓うための精神的な規範を示す必要があった。
**3.** 元寇（モンゴル襲来）による出兵で困窮した御家人の不満を解消するため、借金を無償で帳消しにする徳政令の仕組みを全国に広める必要があった。
**4.** 平将門の乱を鎮圧した後に生じた関東地方の混乱を収めるため、貴族の法律である律令を武士にも厳格に適用することを目的とした。

**問4** 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国（分国）内の武士や民衆を統制し、領国内の秩序を維持するために独自に制定した法律を何といいますか。 （2024年　千葉県公立入試　類似）

**1.** 御成敗式目
**2.** 武家諸法度
**3.** 公事方御定書
**4.** 分国法

**問5** ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。 （2018年　福島県公立入試　類似）

**1.** 聖書
**2.** ローマ教皇の命令
**3.** 免罪符（贖宥状）
**4.** 教会が定めた儀式

**問6** 戦国時代を象徴する「下剋上」という言葉の意味や背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2018年　熊本県公立入試　類似）

**1.** 幕府が守護の権限を強め、地方の国人や農民を厳しく統制しようとしたこと。
**2.** 朝廷が有力な武士に官位を与え、伝統的な身分秩序を維持しようとしたこと。
**3.** 身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。
**4.** 農民が団結して自治組織を作り、守護による年貢の取り立てを拒否したこと。

**問7** 1543年に九州南部の種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について、その後の歴史に与えた影響として正しいものはどれか。 （2016年　群馬県公立入試　類似）

**1.** 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。
**2.** この武器の輸入を目的として、室町幕府の足利義満によって明との間で勘合貿易が開始された。
**3.** 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した際、日本の武士が防衛のためにこの武器を組織的に使用して撃退した。
**4.** この武器の伝来をきっかけに、日本独自の武術である剣術や弓術が廃れ、すべての合戦がこの武器のみで行われるようになった。

**問8** 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。 （2025年　京都公立入試　類似）

**1.** 大友宗麟
**2.** 朝倉義景
**3.** 今川義元
**4.** 北条氏康

**問9** 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住まわせる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 （2023年　広島公立入試　類似）

**1.** 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため
**2.** 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため
**3.** 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため
**4.** 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため

# 答え合わせ・解説

| | | |
|---|---|---|
| **問1** | **答え 1**<br>**種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。** | 鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時尭がこれを買い取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつはう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。 |
| **問2** | **答え 1**<br>**ヨーロッパで始まった宗教改革に対し、カトリック教会が勢力を立て直そうとしたため** | ルターやカルバンによる宗教改革によって、ヨーロッパ内でのカトリック教会の権威が揺らぎました。これに対抗するため、カトリック側は自己改革を行うとともに、イエズス会などの組織を通じて世界各地にキリスト教を広め、教勢を回復しようとする「対抗宗教改革」の動きを強めました。ザビエルの来日もこの一環として位置づけられます。 |
| **問3** | **答え 1**<br>**承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。** | 1221年の承久の乱によって鎌倉幕府の支配が西日本まで拡大しましたが、その結果、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との間で土地管理や年貢をめぐる紛争が頻発しました。北条泰時は、武家社会の慣習に基づいた公平な裁判を行うための明確な基準として1232年に御成敗式目を定めました。これは武家独自の最初の法典であり、後の武家政治の大きな手本となりました。徳政令は13世紀末の永仁の徳政令が有名ですが、御成敗式目の制定目的とは異なります。 |
| **問4** | **答え 4**<br>**分国法** | 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の大名は自らの実力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、年貢に関する取り決めなどを定めた独自の法を制定しました。江戸幕府が制定した「公事方御定書」とは時代背景が異なります。 |
| **問5** | **答え 1**<br>**聖書** | ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。 |
| **問6** | **答え 3**<br>**身分の低い者が実力によって上の立場の者を倒し、勢力を拡大させていったこと。** | 下剋上は、室町時代末期から戦国時代にかけて全国的に見られた現象です。守護代が守護を追放したり、家臣が主君から実権を奪ったりするなど、家柄や伝統よりも個人の実力が重視されるようになりました。これにより、各地で戦国大名が台頭し、独自の領国支配を行うきっかけとなりました。 |
| **問7** | **答え 1**<br>**戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。** | 1543年に種子島に伝わった鉄砲（火縄銃）は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬戦中心から、訓練された足軽による集団戦が主流となり、織田信長などの有力大名がこれを活用して全国統一を進めました。また、鉄砲の威力に対抗するため、城は高い石垣や堀を備えた大規模なものへと進化しました。 |
| **問8** | **答え 1**<br>**大友宗麟** | 大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。 |
| **問9** | **答え 1**<br>**家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため** | 戦国大名にとって、有力な家臣が自分の領地で独自の勢力を持つことは、裏切りや反乱のリスクを伴いました。そこで、家臣を城下町に強制的に住まわせることで、家臣と領地の直接的なつながりを切り離し、大名の監視下に置きました。これにより、大名は軍事力を本拠地に集中させ、より強力な統治体制（大名領国制）を築くことが可能になりました。 |